

全学連 国際部通信

July 4th, 2015 Vol.10



労働者・学生が団結して闘いに立ちあがれば、世界をまるごと変革することができる！ 日々全世界でまきおこる闘いは、そのことをはっきりと示しています。この通信は、そうした闘いにスポットをあてるのみならず、実際の交流をも通して、日本での自分たち全学連の闘いの方向性を鮮明にし、大きな闘いをつくりあげるためのものです。留学生をはじめ、さまざまな大学の仲間とともにこの通信をつくってゆきたいと思います。投稿も随時募集しています！

スーパー労働者のデモ隊—「最低賃金1万ウォン!!」



27日は「チャングレ大行進」
総括集会として、ソウル駅
前広場で「最低賃金1万
ウォン争取・労働市場
構造改悪阻止 全国
労働者大会」開催！

韓国・民主労総

行こう！ 7月15日第2次ゼネストへ！！

7・15ゼネストと連帯し、
戦争阻止・安倍打倒の7・15
国会包囲一日行動をやりぬこう！



「終わらせよう！ パク・クネ」プラカードの海

改憲・戦争・原発・首切りの安倍をともに倒そう！

7・5 大集会&デモ

13時、集会開始

15時半、銀座デモ

韓国・民主労総ゼネスト連帯！ 国際連帯とストライキで戦争をとめよう！

7・15 国会包囲行動

9時から終日座りこみ（衆議院第2議員会館前）

11時半、日比谷公園霞門前集合

12時 デモ出発

15～17時、国会前集会（衆議院第2議員会館前）

ギリシャ医療労働者の 命を守るストライキ



革命こそが解答だ！

大恐慌のただなかで、事実上のデフォルト状態にたたきこまれたギリシャ。「緊縮財政はわれわれの権利を死刑にするような暴挙であり、労働条件と社会そのものを中世へと引き戻すものだ」（公務員労組ADEDY）— 2010年以来、ギリシャが受け取ってきた「救済資金」2840億ドルのうち92%がギリシャとヨーロッパの金融機関に流れ、ギリシャ民衆に支払われたのはたったの8%だけ。ギリシャの救済金融は、ギリシャの民衆ではなくギリシャの銀行とトロイカを救うものでしかありませんでした。「緊縮財政」が誰のためのものであるかは明らかです。EUの「通貨は共通だが、政治・経済は別」という内在的矛盾、加えて新自由主義の破綻のツケを労働者に押しつけ、その将来や人生になんら責任をとらない資本主義をこれ以上存続させる必要などありません。労働者が文字通り権力をとり、社会を運営することこそが突破の道です。その闘いの先頭にたつ医療労働者のストライキ報告を紹介します。

▼ギリシャの州立病院とヘルスセンターで働く数千人の医師・看護師・救急隊員が5月20日、人員と予算の不足に抗議して24時間のストライキにたちあがった。

ギリシャにおいて、公共医療は崩壊の淵にある。公立病院労組連盟は、「ギリシャの国民医療サービスは“人員不足・予算不足による制御不能状態”におちいっており、現在シリザ（「急進左派連合＝与党」）政権によっておこなわれている海外の債権者への交渉は、積み重なった問題を解決する前提条件をうみだすものではなく、状況は手におえないレベルにまで進んでいる」と述べている。実際に人口の約4分の1にあ

たる300万人が、いかなる国民医療サービスも受ける権利をもたない無保険状態におかれているのだ。

病院医師労組連盟は声明で、物資や薬品の欠乏問題を解決するために、病院の予算を現在の年間14億ユーロから20億ユーロまで引きあげてを要求している。

ストライキに参加した救急隊員アポストリス氏は、「予算不足は隊員の運用能力と患者の健康に深刻な結果をもたらしています。救急車が壊れてしまって換わりの部品がないために、人びとを救うことができないのです」と語った。担架を運ぶ仕事をしているジュリスラ氏は、「(社会的な理由から)担架に乗って病院に運びこまれる患者を生み出させないためにも予算が必要です。また、わたしたちには1月から残業代が支払われていません」と訴えた。

アテネの保健省前での抗議行動では500人あまりの医療労働者たちがストライキに突入し、社会保障と医療の切り捨てに反対する年金生活者たちも支援に駆けつけた。その後労働者たちは国会と政府庁舎にむかってデモに出発し、機動隊と対峙した。

▼ギリシャの公共医療の極端な低下は、チプラス政権に端を発したわけではない。これは数年にわたる財政の緊縮計画と歴代政権の負の投資の結果であり、EUとユーロ圏におけるギリシャの損失の永続性に起因するものだ。

しかしながらアレクシス・チプラス政権は、ギリシャの人びとと医療労働者たちの心からの要求に応じて以前の政策を180℃転換するかわりに、状況をいっそう悪化させてきた。例えば先日、緊縮財政法案が国会を通過したことで、自治体から病院までのすべての政府機関は手元資金の使用を要求されることとなった。つまり、病院にはもはや日常的な最小限の出費にあてる予算すらないということ、そして言うまでもなく、公共医療をめぐるより深い構造的問題を解決することなど不可能だということである。ゆえにこの法律の制定こそが、ストライキ闘争に火をつけるものとなったのだ。

出典 ; IWL-FIウェブサイト "The first strike against Syriza's government"

(http://www.litci.org/en/index.php?option=com_content&view=article&id=2696:the-first-strike-against-syrizas-government&catid=26:greece&Itemid=129)

緊縮財政への怒りと国際連帯は広がっています。6月21日、ブリュッセルで5000人、パリで1万人のデモ。反ギリシャ扇動の中心地であるドイツでも、ベルリンで開かれた集会に1万人が参加し、6月25日にも、交渉が行われたブリュッセル、ダブリン (右: 連帯集会のビラ) などでギリシャ民衆との連帯行動が行われました。



連載 〈香港的鬥爭不還結束！—香港の闘いは終わっていない！〉

*このコラムでは、昨年9月に、行政長官の選挙を契機に「真の普通選挙を」と訴え、学生と労働者が金融街を数ヶ月間にわたり占拠した香港の「雨傘革命」を紹介してきました。今回は最終回です。

④香港大学学生団体×沖縄大学学生自治会の交流が実現！

6月8日、沖縄戦についてのスタディツアーで来沖した香港大学の学生団体「世界学生服務社」と沖縄大学学生自治会との交流会が行われ、大成功しました！

交流会では、自治会再建の経緯とその後の戦争・基地建設阻止の闘いについて赤嶺委員長らが提起。なかでも、いわゆる「集団自決」（強制集団死）の問題について強い関心が寄せられました。

30人で来沖した香港大メンバーからのプレゼンテーションは、昨年の「雨傘革命」について。今回の交流ではとりわけ、闘いの高揚の土台をなしたもののこそ、学生による自己決定・学生自治であるということが鮮明になりました。（学生団体に関して）「当局の公認・非公認という概念そのものがない」—こうした力関係のもとで、学生が仲間と自由に討論し、授業をストライキして街頭に飛び出す方針を決める闘いが可能となったのです。

時代が激しく動くなかで、実際に闘ってきた団体どうしが「学生はいかに生きるべきか」「戦争の本質とはなにか」を追求して行われた今回の交流は、東アジアでの戦争をとめてゆく国際連帯の出発点となりました！



教授等の引率はなく、学生がすべてをコーディネート

Join us, please!

☆みんなで作業しよう！（翻訳など）

闘いの報告や声明、資料などの翻訳・発信等に、ぜひご協力を！

☆学習会をはじめよう！

メンバーの問題意識にあわせて行っていけたらと考えています♪

ex. 世界各国での学生の闘い、入管問題など



発行：全学連（全日本学生自治会総連合）国際部

Tel：090-1845-7062（うちだ） / Mail：intl-solidarity@hotmail.co.jp